

世には、かゝる不心得の親達や、又足袋のつぎさへ、碌に出来ぬ女子を往々見受けることあり、此等はいとも嘆かはしきこともなり。

凡そ女子の學問とは、所謂讀み書き算盤なごにのみ止らず、根本的の學問によく心を用ひ、和順なる徳性を養ひ、而して枝葉的の學問に取り掛るべきも、先づ日常女子に必要な裁縫のこと、洗濯の仕方、按摩の稽古、又料理の法なごをも心得置くべきこと肝要なり。若しこれ等の事に疎くば、假令、如何に學問に通達せりとも、女子の務には缺けたりとやいはん。世の女子たるもの、深く我身を顧み、人の毀を招かぬやう慎むべきことなり。

讀者幸に文の拙劣を咎めず參考の資に供するを得ば幸甚。

盛岡地方の手毬歌、お手玉歌(承前)

盛岡 山村 材美

一、せんだいの、せんだいの、あまが娘は善い娘、赤地の小袖に茶の袖、裾をまいたり、着流して、しよなら、しならど行く所、親は見てさい、善いと見る、まして他人は唯惚れべ、たいもはれらば晚御座れ、晩の枕は、何枕、東枕に窓の下、戸の下から、そろりそろりと、手を延べて、此處は名代の金處、たいさまめかて、何に積む舟につひ、舟は沈んでなるならば、脇差刀は、おどつあんえ(父え)葛籠三ツはおかさあんえ(母え)化粧道具は姉さんえ、おらが姉さん、面も洗す、髪も結はず椿油で、せうろせうろ、一ちようく。

一、おん正、正、正、正月で松立つて竹立つて旦那の嫌いな大三十日、一夜明れば元日で年始の御祝儀申しませう、小僧や小僧や、お茶持て來い、吸物なんぞも早

よ持て来い、向ふの、おばさん、ちよいとお出、お芋の煮ころがし、お茶あがれ、後で、おならは、御免だよ。

羽子

おほらうり、お羽子、御羽は十三、九ツ、十、澤ア邊、

金成、若柳、若くて、はねるは白兔

七夕

今年豊年萬作で、櫛で計らなえで、箕で計つた...

若い衆、たのみませう、まわりはね、おちよ子さん、

あれ見らせ。これみらせ。

螢狩

一、螢さん、おいとしや、夜は、ぼんぼり高提燈、晝

は草葉の露の蔭。

二、螢さん、山見て来い、行燈の光を、ちよいと見て

来い。

三、螢さん水飲め、彼方の水は苦いぞ、此方の水は甘

研究 盛岡地方の手毬歌お手玉歌 駿河地方の子守歌に就て

いぞ、なんぼんばたけの螢

鬼遊

れいれえれば、かさうり雀、あぶらひき鳥子、つゆのめちりん。(ついで)

駿河地方の子守歌に就て

駿河國大宮町 加藤伊砂吉

余は我國の子守歌の多くを見て、我國幼兒保育の主、義が子守歌に依りて、明かに窺ひ知らるべしと信ずるものなり今左に大宮町附近の子守歌二三を擧げん。

其 一

「ねんねんよー。ねんねんよ。ねんねの子守は、何處往った。山を越して。郷いッた。郷の土産に何貰った。でんでん太鼓に笙の笛」

其 二